

# (およばれの日)あそび

東京市麹町小學校附屬幼稚園

柴田みどり

(およばれの日)それはおよばれするお客様にも、およびする主人側にも共に待遠しいうれしい日なのです。

當園では各組との親密を増し共に一日をたのしく面白く遊ぶ事を主眼として一學期に一度づゝこの日をきめて三組が順におよびする事にしてゐます。これは、先づ私どもがその季節に合つた童話やお話を選んだり創作いたしましたりして案を設けて幼児に相談して各々の役割を仕事を定めて準備をし、當日は保姆が主となつて會を進行させます。

第一學期 (夏) 龍宮城へ(浦島太郎のお話にて)

第二學期 (秋) お山へ (創案)

第三學期 (春) うぐひすの宿へ(創案)

幼児達はこの保姆のお話の進むにつれて想像の世界で

ある龍宮城。秋の山。うぐひすのお宿にほんこくに遊んでゐる氣持になつて何の不思議も矛盾もなく楽しく活躍いたします。まづ創案から述べてみませう。

秋のお山へお遊びに参ります。(十一月頃)

私(保姆が申します)は森の小人です。今日は皆様を森にお連れしに参りました。森は今それは／＼美しい御座います。まづかなかへでや錦木が緑色の松や杉の葉がさなり合つてきれいな／＼お着物の様です。又木には甘い柿や栗が澤山なつてゐます。お山のお姫様は皆様にいろ／＼な面白いこをお見せしたり御土産を差上度いゝ待つてゐらつしやいます。さうぞお出で下さいませ。さあお歌をうたひながら参りませう。(お手々連いでのお歌を合唱する)だん／＼お山も深くなつて來ました道も細くなりました。ア



ラあんな所に栗が澤山落ちてゐます。お歸りに拾ひませうね。おや何か來ました。あゝ私の兄弟です。

小人僕(幼兒)達もお迎ひに來ました早くまいりませう」

さうも有難う、さあだんぐ、近くなりましたあの木のむかふです。オヤ又何か來ましたあゝ熊です。(左の衝立の影から出て來て皆の前に進みおじぎをする)

熊「みなさん今日はよくいらつしやいました」

「こんごは兎が來ました」

兎「みなさん今日はよくいらつしやいました」……(右の様にライオン、狐、トラ、雀、文鳥、目白、烏、ふくろ、等順に出て來て挨拶する。組の人数によつて獸や小鳥の數を増減する。簡単な言葉であるから誰にも云へる。)

する分澤山お迎に來て下さつて有難う。さあ急いで参りませう(お手々ないでを歌ふ)そらもう御殿です。(中のしきりを取る)お姫様や木の葉がならんでゐる)お姫様やうやくお連れしました。

お姫様(幼兒)皆様よく入らつしやいました。この間から皆でおまちしてゐました。今日はたくさん遊んで行つて下さ

いませ。木の葉の歌や踊りをおみせしませう。(楓や銀杏が順に出て、木の葉の歌其の他何でもを歌つたり踊つたり) するお客様は拍手する。

お姫様、こんごは獸さんや鳥さんにしていたゞきませう。獸ミ小鳥が、うさぎ小鳥の學校あしがら山小鳥の言葉等の歌ミ踊をする)

お姫様「すいぶんお遊びして疲れましたでせう。ではお山の暗くならない中にお歸りなさいませ。おみやげを差上げませう」(前に準備した籠を木の葉達が配る)

お姫様さようなら、ごうもありがたう御座いました。さあ歸りませう小鳥さんも獸さんもさよなら。

小鳥、獸一同(さようなら又いらつしやいませ) 退場する。

さあ急ぎませう。さつき栗が澤山ありましたつけ。そう／＼此處です皆様で拾ひませう。そうしてさつきの籠に入れませう。(前にきり紙で栗や木の葉を切つて散して置いたのを出て來て拾ふ)

さあもう澤山拾へましたね。オヤもうみな様のお家が兒

へました私はこれでお別れをいたします。御元氣にお歸りなさいませさよなら。終り。

### 相談

1、前のおよばれの日を思出す。

幼兒は前の樂しかつた事を話し合つて喜びます。今度私達の組で皆様をお招きしませうミ申しますミ大賛成で次ぎの相談に移ります。

2、前のお山行きの話をきかせます。

3、役割をきめます。お山には何が居ますかミ聞きますミ自分の知つてゐる限りの物を申しますのでその内で、自分のなり度い者を考へて定めます。ライオンなど不適當ミ思ひましたが非常に熱心の心持で申しますので加へました。木の葉も美しいのを考へて選ばせます。

4、お土産を考へる。先は箱をいたゞいたから今度は籠がよいなぞミ申します。中へ何を入れませう。

チヨコレートビスケツトミ自分の好きな物を上げますのでその数なごも定めます。

準備。

## 1、小鳥。獸。木の葉。つくり

小鳥と獸は繪本の中から自分のする者を探して來て見てかきました。標本があればそれを見てもよろしいと思ひます。薄いボールにクレヨンで描き切抜いて紐で前につります。

## 2、おみやげ作り

膳寫器にて籠を刷り自分の好きな配合にクレヨンでぬり切り抜く。一人で三つ位作る、他の組の方に差上げるのだと思つて一生懸命に作る。

## 3、お部屋の飾り

社會遊びの衝立に松、楓、銀杏を色紙で切りぬきはる。幹や草はボールにクレヨンをぬる。

御殿は箱積木に銀紙をはり組立てる。

## 4、栗や木の葉作り

膳寫刷したものに彩色して剪抜く。

## 5、練習

役割によつて言葉を覚える爲に練習をいたします。午前中は準備の製作にかゝりますので食後少しづつ致します。

皆嬉しくて練習しない日は不満足氣です。凡三度位致しませう。覚えてしまひます。

## 6、お知らせ。

字の書ける者にお招待の手紙を書かせて各組へご返します。

これで準備も出来ました。他の組の方は待遠しくてお部屋にのぞきに参ります。今までの喧嘩相手はすっかり仲よしになります。

當日。部屋の後方にお客様の席を設けます。正面は誰もゐません。衝立の中では小鳥や獸になつた者のクス／＼コソ／＼と聲がきこえます。お客様は何が出て来るのかまちもうけてゐます。やがて私の話につれてお伽の森に遊びに参るので御座います。約、二時間近く遊んでお土産の籠中には小さな袋にお菓子が入つてゐます。貳錢。チョコレート二つ動物ビスケット五つ。色紙に包んだチョコレート二つ。畫用紙の栗やドン栗や楓も入つてゐます。それを大事そうにかゝえて歸り行きます姿を都會に育つて、ほんまうの自

でなければならぬ。

母親はまことに偉大なる神祕である。此の事實を知り得ないものは人生の本質を見ることの出来ないものである。

(六二頁よりつゞき)

然に接する事の出来ない幼児達はせめても想像の中に秋の森、秋の山に遊びに行き得た事を私どもは思つて喜しく見送ります。

龍宮城ゆき鳥の國ゆきは又次に書かせていただきます。

以上は相談いたしましたから當日まで一週間を要しますがかなり忙しい思ひを幼児と共にいたします。二十七八人の者が五十人以上のお客様を迎へるので、御座いますから。しかし子供達は緊張した楽しい様子です。一つの目的の爲に、組全體が活躍する云ふ事の爲にも一日を面白く遊ぶ云ふ事からも、良い遊びではないかしら  
ミ考へて居りますがどうぞ御批評下さいませ。

ふこは此の際最も必要なここののであるから。それにしても、女醫ですらもが、勞働階級の婦人が産褥で寝てる期間が長すぎる、と言ふ驚くべき意見に賛成する者が多いのである。彼女達は有福な婦人達は決して異なる人種ではない。たしかに彼女達は其の貧弱なる健康状態にも拘らず、習慣し、そして迫られる必要から、其のひさい仕事の重積を辛うじて脊負ひ耐へてゐるけれども、然しそれは女醫先生の平常時の體力の最大限以上の勞力と精力を費してゐるのである。

ひさい貧乏の惱みの底にある家庭の中でも、母親は赤坊の樂しげな微笑を見るこき人の心は明るく躍る。まこは母親の苦しみは深く絶える間もないであらう。そして又來る次の妊娠のくびきに苦しむこを思へば怖れ戦くこではあらう。然し母親はなこの中に其の子供に對する限りなき愛情が成長して行く。それ故に、總ての母親にこつて、最も貧しい最も重い重荷を負つた母親にこつても、嬰兒の死、死産に云ふこは最も悲しき損失、永遠の悔恨